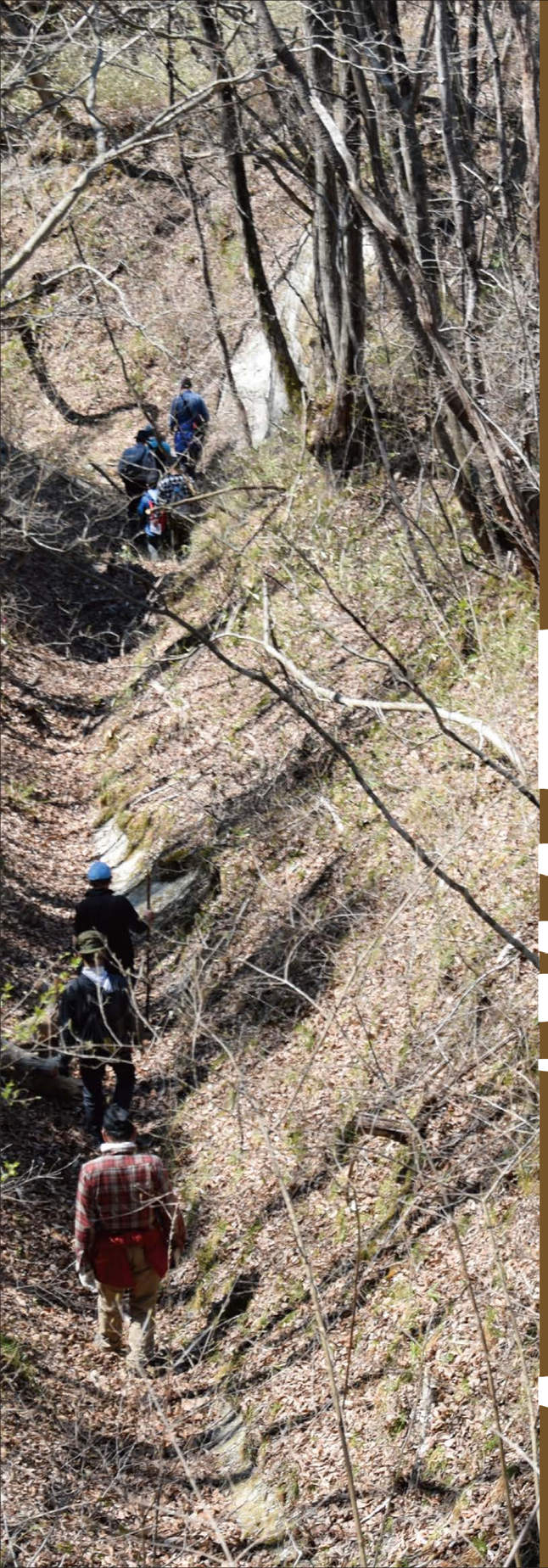
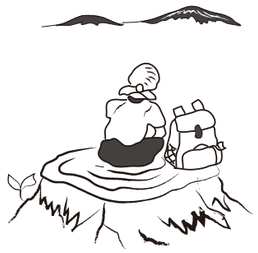


いってみっぺ秋保！

名取川の谷あいに沿って仙台と山形を結ぶ二口街道（二口越え最上街道）が秋保郷を横断していますが、この街道の起点は長町宿であることから、仙台城下と山形・山寺間を最短で結ぶ往還として、板蔵峠と大雲寺峠を越えて関山街道と二口街道を結ぶ峠道が存在しました。現在でも、その古道の痕跡が確認できることから、この古道の痕跡を辿ってみます。

板蔵峠道については、「板蔵峠の狐岩」の民話が伝承されています。また、千葉県の児童文学者であった「高野つる」さんが、縁あってこの峠を越えた時のことを「足んこの歌（あしょんこのうた）」という著書に書いており、この本に板蔵峠から蔵王連峰を眺めた風景が挿画として描かれています。



イメージイラスト

秋保の古道
板蔵峠道（いたおろし）・大雲寺峠道

大雲寺峠と板蔵峠
二つの峠を介した峠道
二口越え最上街道（二口街道）と
関山越え最上街道（関山街道・作並街道）
人馬が往来した古の峠道をたどる

いってみっぺ秋保！

秋保の古道
板蔵峠道・大雲寺峠道

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連　絡　先：秋保総合支所総務課（022-399-2111）
秋保市民センター（022-399-2316）

掲載されている情報は、令和6年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.47

仙台から秋保を越えて山形へと通ずる最短の道は、愛子宿を過ぎると関山越え最上街道（関山街道・作並街道）から二口越え最上街道（二口街道）へと山越えの道を辿らなければならない。

一つは上愛子の板蔵追分から左折し板蔵峠道を越えて境野・長袋へと通ずる道、そしてもう一つが白沢道半の追分から折葉を経て大雲寺峠道（一部白沢峠と重複）を越え加沢・馬場へと通ずる道である。

古の街道は、一つに最短であること、そして勾配が緩やかな道であることがなによりも優先された。

山越えとなるこの二つの峠道は、仙台と山形・山寺間の往還として、商人や巡礼、そして人々の暮らしの中で、秋保街道の主要脇街道として多くの人々に利用された。

そこには峠道を行き来した人々の長い歴史と様々な物語が詰まっている。

鬱蒼とした森の中、その痕跡を辿りながら静かに時を刻むその風景に身を置くと、先人の想いが伝わってくる。

大雲寺峠道

二口街道の加沢から分岐し、大雲寺、加沢ため池、大雲寺峠を越え、新田で旧白沢峠道と合流し、白沢道半の国道48号線(作並街道)までをつなぐ古い道で、往時の雰囲気を残しています。この峠道は、古来より秋保郷北側の地域と結ぶ主要路として発祥し、戦国時代の秋保氏が、馬場秋保氏を分家創譲した頃にはあったと云われ、秋保郷への侵入に備えた遺構などを残しています。

藩政時代に入り二口街道の往来が増加すると、東に勾配の緩やかな境野の板風峠道が発達し、そちらの往来が多くなるにつれ、大雲寺峠道は山仕事のみの利用となり衰退をたどりますが、昭和初期頃まで馬場の人々は、木炭等の荷出し時は、加沢から大雲寺峠を越した後、新田を経由し戸神山東側の麓を越え、折葉の集落を通って、白沢道半で作並街道と合流し仙台へ向かったといいます。

昭和に入って仙山線敷設整備の頃、車の往来が可能な旧白沢峠道が整備されると、加沢の起点は野中へと付け替えられ、泉口を通って新田へ向かうルートとなり大雲寺峠はその役割を終えるに至りました。(この時折葉集落もまた通らないことに変更される)

その旧白沢峠も、戦後起点を秋保中学校前に変更され、湯の辺田を経てかつて肉抜き峠と称された現在の457号線ルートへと変っています。

今は一部荒廃が進みすべてを踏破することは叶いませんが、加沢の県道分岐点と道半の国道分岐点には道標石があり、二口街道の脇街道として重責を担い、往来する旅人たちが山越えの最短道の一つとして往還していたことが分かります。

⑥折葉集落の出入口

旧大雲寺峠道発達とともに形成されたと思われる折葉集落の出入口。

⑦白沢道半

白沢道半の大雲寺峠道と関山街道の追分地点、旧関山街道は、西進せずここから正面の道を広瀬川(野川)へ向かって北上していました。近くには追分の目印となった古碑群があります。

⑤新田

新田からは旧白沢峠道と合流し道幅が広くなり歩きやすい。

④鷹来山秋保家屋敷跡

藩政時代初頭、馬場秋保家から分家、大雲寺峠道の監視を目的に配置された居館と伝わっています。(案内者なしでは入れません)

③大雲寺峠

大雲寺峠のピーク。人為的な切通しが古道の雰囲気を醸し出しています。

①加沢向宿の街道分岐

稲井石の道標があり「白澤江一里十丁湯元江二里十丁」と刻まれています。

②加沢ため池

峠道はこの土手を通り、向こうに見える戸神山の麓を通っていました。

板風峠道（いたおろし）

長袋や本砂金方面から二口街道の境野桜町の追分を経て、境野野尻の分岐から森峯山の丘陵を抜け、山田の峠下から板風峠を越え、愛子の道六神で、作並街道に合流する二口街道と作並街道を結ぶ脇街道です。

藩政時代以降二口街道はこの峠道により、仙台山形間を最短でつなぎ、西に位置する「大雲寺峠」を凌ぐ通行量を誇りました。主要路として多くの旅人が行き来するとともに、馬場や長袋など二口街道沿いの集落のほか、国久・石神・本砂金方面の人々も仙台方面へ炭を運ぶのに通った道で、峠道沿いには、石碑や人馬が往来した痕跡があります。作並街道との合流付近にある道祖神は、この道を行く人々の安全と疫病や悪霊を払うことを祈願して祀られたということです。

峠道が県道として整備される計画が持ち上がったこともあったそうですが、馬での荷運で生活している人々が反対したため県道にならなかったというエピソードが伝わっています。以後、戦後になって西に大雲寺峠に代わる「旧白沢峠」が開通すると、車の通行ができなかったこの峠道は、昭和40年頃まで利用されましたが、それ以降は利用されなくりました。現在はゴルフ場や板風鉱山となり、すべてを踏破することはできませんが、自然と付けられた迂回路があり通り抜けはできるようになっています。

⑧道祖神の社と道標の供養塔

「右ハさかの下通 左ハふたくち通」と刻まれている。この付近が板風峠道と関山街道の合流点でした。

⑦ゴルフ場への道との出合

⑥板風峠

板風峠頂上の古碑と峠越えの下りとなる愛子方面への道筋。ここからは鉱山沿いに付けられた脇道を緩やかに下ります。

⑤秋保石採石場跡

石を採った岩や道具が残されていて、当時の状況を想像することができます。

③おっかな坂

切通しの崖の上には山の神塔が祀られ、里と山の境をなす特別な場所です。

④水神を祀る水汲み場

①境野桜町の追分

板風峠道からの道と国久・本砂金方面からの道が交わる二口街道の要衝です。

②森峯山と「境野東館跡」

戦国時代末期、秋保氏の分家境野氏が、板風峠道の監視を目的に築館された遺構。春は桜の景勝地となっています。

コースの目安

※整備が行き届いていない部分もありますので、案内者同行がおススメです。

大雲寺峠道　❶加沢向宿の街道分岐 スタート ➡ 大雲寺 ➡ 加沢ため池 ➡ ❸大雲寺峠 ➡ 旧白沢峠道（新田） ➡ 旧白沢峠 ➡ 白沢峠（国道457号線） ➡ 折葉 ➡ 道半（国道48号線）

板風峠道　境野コミセン（桜町）スタート ➡ ❷森峯山 ➡ ❸おっかな坂 ➡ 山田の板風峠入口 ➡ ❹水神 ➡ ❺秋保石採石場跡 ➡ ❻板風峠 ➡ 上愛子道祖神 ➡ 関山街道（国道48号線）